平成22年1月1日発行

広報

たちばな

第16号

(財)日本医療機能評価機構認定病院

橘 病 院

整形外科専門病院

TACHIBANA HOSPITAL

http:www.tachibana-hospital.jp

年頭所感

理事長　矢野良英

新年明けましておめでとうございます。2010年が皆様にとって良い年でありますよう、心からお祈り申し上げます。

世相を漢字１文字で表すと、昨年の漢字は「新」であった。選ばれた理由に挙がったのは、民主党新政権誕生や米大リーグのイチロー選手が樹立した９年連続200安打の新記録、新型インフルエンザの猛威等であった。

中でも、衆議院選挙で自民党が民主党に大敗を喫して、民主党を中心にした政権が誕生したことが一番だったと思います。民主党政権下で、税金の使い道がコンクリートから人へ移行するという流れの中で、医療政策がどうかわるのか？先はまだまだ見えませんが、世界的に不況の波が続くなかで、日本国も多額の赤字国債を抱え、国が危機的状況にあることは間違いなく、子や孫の時代まで先行き不安の状態が続くものと思われます。当院は医療法人 社団 橘会を立ち上げ５期を経過しました。今のところ計画に沿って比較的順調に経過しています。診療の内容の面でも少しずつですが充実してまいりまして、リハビリ部門が日曜・祝・祭日も休まないリハビリをめざして努力されています。通所リハビリも地味ですが軌道に乗り、多くの介護認定を受けた人達で賑わっています。昨年の人工関節手術件数が218例、大腿骨頚部骨折の手術件数74例を含めた骨折等の外傷の手術件数が217例、関節鏡31例、脊椎の手術８例で、総手術件数が474例となっています。また昨年10月から、日本脊椎脊髄病学会の脊椎脊髄外科指導医が宮崎大学医学部より派遣され勤務されました。頸・肩・背中・腰・臀部・上肢・下肢の痛みやしびれを訴える患者さん達にとっては福音となることでしょう。脊椎の手術症例も少しずつ増えています。今年のことを述べると、4月からは、急性期病床の診療報酬をDPC(Diagnosis Procedure Combination)による請求を行うこととなります。又6月には病院機能評価機構による認定病院の更新の審査を受けることになります。そこで今年の目標は、もう一度橘病院の理念に戻りすべてを見直し、各部門の再評価をする必要があります。病院の職員の医療人としての意識の向上を図り、それを取りまとめる組織の構築が大切です。その目標に向かって努力したいと思います。

手術目的で入院される患者さんの件数が増えていくにつれ、入院機能の強化が大切になります。限られた数の医師や医療従事者を有効活用して、病院に課せられた入院治療の充実を図るために、又外来の待ち時間を短縮する為にも、外来患者さんの診療については、病院と診療所の間の機能分化と相互の連携を図ることが必要になります。そのことを患者さん方にも理解してもらうことが大切ではないかと考えています。

ドクタートーク

小島岳史

みなさんこんにちは。昨年の4月より宮崎大学整形外科の人事で橘病院に勤務しております小島です。それまでは宮崎市郡医師会病院で高齢者の骨折を中心に毎日手術にひたっていました。

4月に赴任してから7ヶ月たちますが、外来の患者さんの数に圧倒されながら、日々なんとかがんばっております。外来待ち時間をできるだけ短くしようと努力していますが、まだまだ至らない点があることと思います。ご容赦ください。

出身は福岡で、宮崎大学を卒業しました。就職の際、福岡か宮崎かで相当悩みましたが、宮崎県のために少しでも恩返しができればと、平成15年に宮崎大学整形外科に入局しました。今は公私ともども充実しており、宮崎に残って本当によかったなと思っています。もう少し自己紹介します。

小島 岳史(こじま たけし) 山好きになるようにと父がつけましたが、山は嫌いです。

S53年10月4日生まれの31歳 B型

嫁・2歳の息子と宮崎市に住んでおり、毎日高速で通勤しています。

趣味:サーフィン10年・サッカー20年・ゴルフ2年

専門はまだ決まっていません。平成22年1月に専門医試験があり、それに合格すればスポーツ外傷を中心に膝関節鏡を専門にしたいと思っております。

もともと、小学校・中学校・高校・大学とサッカー部に所属しゴールキーパーをしていました。スポーツ選手としての経験が活かせるのもスポーツ整形外科分野ではないかと考えております。スポーツ選手の診察の時にはできるだけ、無駄な安静を設けないように、練習に支障がでないようにというのを心がけてやっています。

サッカーの現場にもできるだけ出向くようにしています。ホンダロックサッカー部をはじめ、JFAのトレセンの帯同、最近では新潟国体の少年男子サッカーにも帯同しました。

今後もサッカー現場での経験を日常診療にも活かしていきたいと思っております。皆様、今後ともよろしくお願い致します。

所属長紹介

リハビリテーション科長
塩 﨑　　猛

私が橘病院に勤務させていただくようになって12年目になります。就職した1年目は1人で仕事をしていました。2年目は1名増えて2人になりました。その翌年柏木先生が常勤となり、病院がみるみる変化(進化)していく姿を目の当たりにし、その変化に対応していくのが大変でした。ここ5・6年で病院も大きくなり、リハビリスタッフも20人と大所帯になりました。私が科長の役職になったときはスタッフ3人しかおらず、軽い気持ちで科長になりましたが、今ではあの時科長になったことを後悔しています。しかし、そうも言っておられず、しっかり科長としてまとめていきたいと思っております。

昨年12月より日曜・祭日も出勤し365日リハビリを開始しました。これからは、より質の高いリハビリを目指しスタッフ一同努力してまいります。至らない点等ございましたら私のほうにご指摘いただき、出来る限り対応していきたいと思います。

追伸:2歳の子と10ヶ月の子供に恵まれ子育て奮闘中です。　また、趣味のゴルフにも奮闘中です。

2階病棟紹介

皆様こんにちは、2階病棟についてご紹介を致します。

2階病棟の病床数は50床で、同じフロアに一般病床と亜急性期病床との2種類の病床があります。50床のうち一般病床30床を主に手術前、手術後の看護を行う急性期病床としています。残る20床は亜急性期病床で、急性期治療を経過した患者様が入院されており、在宅復帰を支援しながら効率的で密度の高い医療を提供しています。

患者様が入院生活を送られる病棟は、東側に新館の個室が並びます。日当たりが良く、明るく暖かな環境です。廊下端のデッキには外の風景を眺めながら楽しく会話をする患者様の姿があり、憩いの場となっています。冬の時期になりますとイルミネーションが綺麗に見ることができます。西側は旧館です、休日になりますと前の通りは数多くのイベントが開催されており、楽しく鑑賞できます。また一部の病室からは、丁度良い高さに堂々と映る霧島も見どころです。個室･二人部屋･四人部屋がありニーズに応じた対応が可能となっています。

2階病棟のスタッフは看護師長を筆頭に31名が在籍し、内3名が男性スタッフです。日々の看護を精一杯、元気に笑顔で頑張っています。

入院される患者様は、まず2階病棟からの入院生活となります。入院後の一番不安な時期を過ごされる訳ですので、尋ねたいことや聞いてもらいたい話しなど、どうぞ遠慮なくお話し下さい。1日も早く元気になられるように支援させて頂くと共に、スタッフ一丸でよりよい看護を目指して行きたいと思います。

Room

『痛みが取れて』

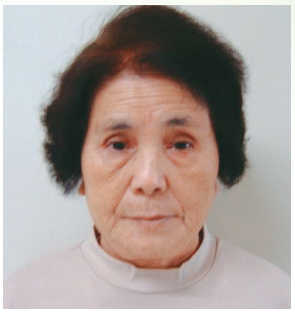
小川ミイ子

三年前に膝人工関節手術を行ないました。手術をする前は、膝に水が溜まり水を抜きに行ったり針治療やお灸をしたりしていましたが、痛みは取れず何年か辛い思いをしました。歩くこともままならなくなり、病院を色々と探し、橘病院を知り、診察を受けました。柏木先生より説明を聞き、痛みが取れればとの思いで手術をしました。初めての手術でしたが、柏木先生やナースの方々の励ましで、不安な気持ちが安心へとなりました。

手術後もリハビリの先生達と楽しくリハビリが出来たこともうれしかったです。退院後は、痛みもなく好きな花を植えたり、野菜作りが出来るようになり、楽しく生活しております。感謝しています。痛みがないことがこんなにもうれしく感じられて幸せです。ありがとうございました。

『股関節の手術をして』

田浦カヲル



柏木院長先生始めスタッフの皆様方には、日々のご多忙をお察し申し上げます。

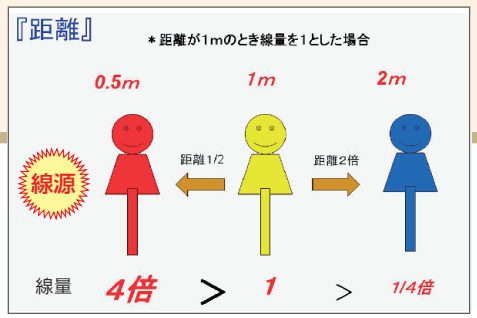
私は、七十歳の頃から右足が痛み出し柏木先生の検診を受けました。その結果、股関節症との診断でした。それから七十八歳で手術を受けました。思っていたより手術の当日も痛みもなく順調でした。退院も思ったよりも早く、その後の経過も良くて杖もいらなくなりました。もっと早く手術を受ければよかったのにと悔いております。お陰様で今では、毎日を快適に過ごしております。感謝の念でいっぱいでございます。先生や看護師さんの手厚い看護に感謝の気持ちをお届けするのが今日になりました。

院長先生始め皆様方のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

院内研究発表会

第7回院内研究発表会を平成21年9月26日に開催しました。職員90名が参加し、今回は妊婦に関するテーマを設定し、テーマに沿った調査･研究を発表しました。各部署それぞれの特徴を活かした発表内容となっており、とても良い発表会となりました。また、職場環境を見直すきっかけにもなり良い研究となりました。今後も今回の研究内容を活かし、また今年の目標を新たにし、職員全体の質の向上となるよう努力したいと思います。

リハビリ	TKA術後患者の退院後の腫れについて
事　　務	事務室内において電磁波が妊婦に与える影響
放射線科	外科用イメージ使用時の胎児への影響について
栄 養 科	妊産婦のための食事
外　　来	外来における妊娠中の女性の働きやすい職場作り
薬 剤 科	妊婦と薬
２階病棟	妊娠中、出産後にも負担無く仕事するには･･･離職率とともに
３階病棟	働く女性の妊娠と流産について
手 術 室	手術室看護が妊娠、分娩に及ぼす影響



放射線スライドより ▶

避 難 訓 練

平成21年10月29日(木)避難訓練を実施しました。

当病院内もしくは周辺において、火災もしくは非常事態が発生した場合、職員並びに患者さんへの対応と、安全かつ確実に避難誘導を行い、災害を最小限にくいとめ、職員の防災意識の高揚に努めることを目的としています。今回は多くの職員が参加して消火班、避難・誘導班、救護班、防護班などそれぞれの模範動作を実践し、非常時の一連の流れを再確認することができました。

標　語 / 平成21年

9月
＊日頃の予防と心がけ
皆で守ろう いきいき職場

10月
＊事故防止 焦らず 慌てず 確実に

11月
＊良い医療 チームワークが 成せる業

12月
＊思いこみ 思わぬところで 事故発生

橘病院の理念（私たちがめざすこと）

当院は「医療の質の向上」を追求し、患者様（家族）と職員・スタッフがともに「心ゆたか」になれる病院を目指します。

患者様の1日も早い社会復帰（家庭、就労、就学など）を願い、地域住民から安心され、信頼され、共感を得られる病院づくりを目指します。

●皆さんから何か疑問に思われることやご質問があれば、当院の医師、看護師、理学療法士、栄養士、薬剤師、放射線技師、事務員がお答えいたしますので文書や口頭、メールでかまいません。お寄せください。
（メールアドレス info@tachibana－hospital.jp）

広報委員
新留 ひとみ・森山 善子・中村 みゆき・池之上 浩紀・川崎 由紀子・山元 加代子
山下 みさ子・増田 真樹・山口 光生・野口 勇樹・椎葉 まさみ・去川 望水
野崎 麻衣・岩崎 綾・藤野 八百子